

雲の上にはいつも...

【No.5】藤城小学校 校長室より（不定期刊）

平昌(ピョンチャン)オリンピックでの興奮(こうふん)もやっと落ち着きを見せ、明日から始まるパラリンピックの話題が多くなってきました。さまざまな色のメダルと感動をもらった大会でしたが、メダルを取っても予選で敗退しても、選手たちの口から出る言葉は「感謝」。時間と体と心のすべてをつぎ込んで何事かをなし終えたとき、自然とわき上がってくるものは自分を支えてくれた人々への「感謝」なのでしょう。

さて、3月の小学校ですべてをつぎ込む取り組みは何でしょう。そう、「卒業式」です。6年生にとっては藤城小学校での、まさに最後の授業。平成24年4月6日の入学式の「おめでとう」から2,177日目、3月22日には71名の6年生が卒業の「おめでとう」を受け止めます。私自身、初めての校長としての卒業式。卒業証書を6年生のみなさんに渡せることが、とっても嬉(うれ)しい。自分の名前が呼ばれたら誇(ほこ)りを持って「はい!」と答える。そんなみなさん一人ひとりに6年間の頑張りに対する尊敬とねぎらいの思いを込めて、おめでとうを伝えたい。

2,177日も小学生の日々。そんな6年間の思い出はきっと特別なものでしょう……。親子で参加した入学式。夏まつりのお店、修学旅行、学習発表会……。もちろん楽しかったことばかりじゃない。どうしてもなく涙があふれたこともあったでしょう。そんな様々なシーンを思い出すと、胸のあたりがちよっと酸(す)っぱくなっちゃう……。



♪ ～ 今 卒業のとき 胸にこみあげるものがあるけれど
まっすぐ顔を あげて さよならの向こうには何かがきっと待っている ～♪



これは送る会で6年生が歌った歌詞の一部です。卒業式。私が望む姿はこうだ。今、となりにいる友だち。6年間背負ったランドセル。毎日歩いた通学路。見守り隊。窓から差し込む陽の光。給食のおいしそうなかおり。慣れ親しんだ教室。先生。そして、誰よりも大切な大切な家族……。そんな、今の自分をつくってくれたすべての人に、すべてのものに、深く一礼。そしてそのあとは、まっすぐに顔をあげ、誇らしく前にふみ出していく……。



71名の卒業生のみなさん。あなたがた一人ひとりは、地域の方や教職員の限らない優しさと粘(ねば)り強さ、そして何より、家族の無償(むしょう)の愛情に包まれてきました。4月からは中学校という社会で毎日を過ごします。不安も大きいことでしょう。一人だけ別の中学校に入学する人はなおさらかと思います。

社会は「信じる」ことで成り立っている。だから「支え合う」んだ!



みなさんに大切なことを伝えます。少し難しいかもしれませんが聞いてください。私たちが生き、生活している社会というのは、私があなたを、あなたが私を信じることで成り立っています。信じているからこそ他人の心の痛みを自分のことのように感じたり、感謝の涙にもらい泣きしたりする。だから人と人とは支え合います。その、人と人が支え合うしくみを「社会」といいます。たとえ生まれたばかりの赤ちゃんであっても立派に家族を支えています。だって、赤ちゃんの寝顔を見ているだけでみんな幸せな気持ちになるじゃないですか。だからいま、あなたはここにいて、それだけで必ず誰かの支えになっている。そうです。みなさん一人ひとりがいるからこそ、社会が成り立っているのです。信じること。支え合うこと。それが藤城小学校の『思いやりの心をもって生き生きと活動する』であると考えています。

「曲がり角の先には、何があるかわからない。でも、きっと良いものにちがいない」

これは『赤毛のアン』(モンゴメリ作)の最終章で、マリラとグリーンゲイブルズを守るために大学への入学を諦(あきら)めたアンが自分の決意を述べるシーンで、夢をあきらめないという思いで語られた言葉です。人生は本当に次から次へと「曲がり角」が現れ、その先には何があるかわからない。だからこそドキドキワクワクするもの。いいことも、そうでないことも、なにひとつ無駄なことはない。すべてが関係し合い意味をもちます。

卒業式は、大きな曲がり角です。先の見えない未来にワクワクしながら、なりたい自分になるための前進を続けよう! 未来は突然やってくるのではない。「今」の積み重ねが未来へとつながっているんだ! なりたい自分になる道は、何通りもある。遠回りになったとしても、それもまた自分自身の一度しかない人生。でも、そんな道を進むにも、自分からやらなければ何も起こらないんだ!



「今年の6年生は本番に強い」と言う人が多くいますが、それは「あきらめなかった証明」だ。決してあきらめなかったからこそ、運動会の組体操は成功した。大丈夫。もし、つまずいて転んでしまったら、また立ち上がって歩き出したらいいさ。できる。できますとも、君たちなら! 曲がり角の先にあるステキな未来を、あきらめない君たちならきっと手に入れることができる。そして、ちょっと早いけど、卒業おめでとう!